

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 31年 4月 13日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676000088
法人名	医療法人 財団 浩誠会
事業所名	グループホームゆめ
所在地	鹿児島県霧島市霧島田口2143番地 (電話) 0995-57-2077
自己評価作成日	平成31年1月17日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成31年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは北には霧島連山が聳え立ち、南は桜島を眼科に見下ろせ、雄大な景色を満喫できる場所にあります。また、霧島神宮が近くにあり、初詣に出かけています。併設の霧島杉安病院との医療連携も充実しており、内服薬や心身の状況をこまめに主治医・看護師に報告し連携を図ることで、異常時の早期発見に努めている。リハビリにも積極的に参加し、筋力の維持・増強や認知症の進行予防だけでなく、より長く、快適にホームで過ごして頂けるよう支援している。霧島町の施設同士との連携や、サロンの開催にて、地域密着に努めている。明るく開放的な建物と豊富な温泉のもと、専門スタッフとゆっくり安心できる生活を送れるよう支援しています。

ホームは、霧島連山を背後に自然豊かな場所にあり、母体の医療法人との24時間切れ目のない医療連携が図られており、緊急時や重度化などに対応、訪問看護ステーションなどとの多職種連携が図られている。

食事が楽しみになるようにメニューを工夫したり、提供した食事の内容を法人の栄養士からのアドバイスなどを参考に調理している。誕生会には、赤飯やちらし寿司などやリクエストメニューがあり、家族と一緒に花見弁当を楽しんだり、年2回、(5月、11月)買い物や紅葉見学と同時に外食を楽しんでいる。包丁を使って野菜の皮むきや下ごしらえ、テーブルやお膳拭きをするなど能力に応じた手伝いがあり、食への意識向上や意欲が引き出せるよう支援している。また、週一度のパンの移動販売を利用される方もいる。

重度化や看取りに関しては、指針や事前意思確認書、アンケート調査を参考にして、利用者や家族が望む終末期ケアの実現に向けて取り組んでいる。主治医や医療関係者、本人、家族と十分に協議し、本人の思いに寄り添いたいという事業所の意欲もあり、退院後ホームで看取りを開始し、家族や職員が一体となり本人の希望で穏やかな最期を迎えることができた。看取り実施後は、家族や職員との振り返りやグリーフケアを行い、職員の達成感を今後の看取りケアに活かせるよう意思統一を図っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	当事業所の理念である「その人が”その人らしく生きる”」ことを支援し地域住民とともに医療、保険、福祉活動を通じ利用者様が共同生活送る上で、自らの役割をもつことにより、達成感や満足感を得、自らの生活の場であると実感できるよう必要な援助を行う	その人らしさを追求し、利用者に対しての満足なケアができる様、また、達成感が得られるよう理念に沿ったケアを実践している。ミーティングや勉強会は、理念を振り返る機会として活用している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	地域の中学生在が毎年体験学習で来訪したり、地域の公民館主体で行っているサロンへ招待を受けたり、法人で行っているサロンにも参加している。又、地域の施設同士で毎月交流会を行っている	2ヶ月毎に、地域の介護施設やグループホームの管理者などで構成される、「契り会」にて情報共有したり、意見交換し、他の施設協力もあり、運動会を開催した。ホームは、ボランティアを受け入れたり、地域サロンで管理者が認知症啓発活動のため講師を務めるなどして地域貢献している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	市主催の認知症介護交流会の参加、ライフサポートワーカーや障害者福祉基礎研修を取得し高齢者や障害者の方と暮らす中での悩み、その中で介護している家族の方への支援、助言などを行っている。地域の公民館の依頼にて勉強会なども行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動内容・取組・問題点・利用者様状況を報告し活発な意見交換を行い、サービスの質の向上に活かしている。	家族は、毎月交代で会議に参加してもらうなど、家族との関係性も良く避難訓練と同時開催し、避難時の役割や災害などについて消防署員から知識や技術を学び自己研鑽している。また、看取りの報告も行い今後の支援に向けて、他の施設から意見をもらい参考にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とは、適切な運営を行うために市担当者を訪ねたり、電話にて相談したりし、サービスの質向上に努めている。	市担当者からは、運営や事業所の取り組み状況について、指導やアドバイス・意見を参考にするなど連携を図っている。また、福祉事務所や市社会福祉協議会など専門職との連携もあり相互に協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	重要事項説明書に「原則として身体拘束は行いません」とあり、職員も周知徹底している。事業所に身体拘束委員会を設け定期的に委員会や研修を行っている。又、法人の身体拘束委員会に出席している。	昨年、3月指針の見直し整備を行い、会議は、3ヶ月ごとに実施している。会議内容は、職員に周知徹底しており、身体的拘束等適正化に向けて意識も高く言葉の使い方には特に注意を払っている。研修は、法人と合同では年1回、ホームのみで年2回実施している。また、職員の勤務交替を柔軟に行い、危険につながる事の無いように、利用者の安全な暮らしを目指している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しては新聞、テレビなどの報道を知らせ、虐待防止のために職員と話し合っている。又、言葉の虐待、職員のストレスから起こり得る虐待に対して管理者、主任が気をつけている。又、職員同士の助け合いで虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や権利擁護の研修会等に参加し、職員へ勉強会を通じて理解の周知を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は、十分な説明を行い同意を得た上で署名、捺印を頂き、本人・ご家族に関する契約書（重要事項説明書）をお渡ししている。又、退所の際も、契約者と十分な話し合いを行い、退所後に関しても安心していただけるような説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置し、苦情相談窓口も目に留まりやすい場所に掲示しており、日々の生活においても利用者様が相談、苦情の言える雰囲気作りが心にかけている。苦情相談があった場合は、直ちに報告し、早期解決が図れるように取り組んでいる。入居される際、契約書の説明時に相談・苦情がある場合は些細なことでも相談していただけるよう声かけしており、相談・苦情があった場合は運営者・管理者に報告がされ、改善できるところは速やかに対応し、処置への内容等を家族に連絡している。	管理者や職員は、面会時や家族会、運営推進会議などで、利用者、家族の意見、提案などを十分聞くよう努めている。毎年、家族会で話し合いの後、敬老会を楽しんでいる。定期健診の費用について家族から意見があった。意見は真摯に受け止め運営者に相談するなどして丁寧に回答し理解を求めるよう取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議において、運営者・管理者も出席しており、話し合いの中や申し送りノートを利用し、職員から出された意見・提案などを反映できるよう努めている。	職員の高齢化、人員不足などの悩みはあるが、外国人スタッフの採用も積極的に行い、資格取得やスキルアップにも熱心に取り組んでおり、6割が有資格者である。勉強会や研修会への参加を勧め職員の人材育成に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	頻回にホームに訪れ、勤務の状況・各自の業務を把握し、声かけなどを行い、職員が意欲的になるよう働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修・勉強会を推進しており、グループホーム協議会や地域密着連合会の研修も積極的に参加させており、研修報告書提出も義務づけている。又、資格を取ることを勧め、勉強会を開催するなど職員育成に努めている。介護福祉士取得の為に研修「まんさく」を法人内で行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域のグループホーム連絡協議会や地域密着連合会の研修会やレクリエーション大会に参加したり、霧島地区の4施設で「契り会」と命名し二ヶ月に1回の情報交換会や毎月、交流会を行っている。今年度は初の合同運動会を開催している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望があった際は、見学を事前にしていただいたり、管理者・計画作成者がご本人に面会し不安や悩み事を聞き入れ、現在の状況や状態の把握に努め、安心して利用できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様同様、ご家族に対しても施設見学などしていただき、又、電話相談・インテークの際もあらゆる場面を想定し対応出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテークの際、ご本人の心身の状態をしっかりと確認し何が必要としているかを見極めてご家族からも生活歴などを聞き、ホームで対応できない支援については他の必要なサービス機関の紹介をするなどしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来ることの能力を十分に引き出し、喜び・悲しみを共有し、共に支えあい生活していただいている。又、ご本人が歌や工作、得意なお菓子の作り方や食べ物などを教えていただき一緒に作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	花見や敬老会などホームでの行事にご家族を招いて食事やレクリエーションをしたり、食事の介助をお願いしたりと、一日を入居者様・ご家族・職員全員で一緒に楽しむ時間を共有し、支えあう関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の要望に応じ、なじみの場所に出向いたり、ご家族に思いを伝えたりし関係が途切れないよう支援しているが、高齢化により継続していくことが困難になってきている。	知人、友人の面会も多く、電話の取次ぎや年賀状や絵手紙が届く方もおられ家族などと繋がり関係性が継続している。美容院、墓参り、行きつけの店に買い物に行くなど家族に協力をもらいながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格、行動などを把握し、気の合う同士席を配慮し、トラブルにならないようにしている。難聴や弱視の方に対しては職員が常に声かけし、孤立しないよう交わりが保てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所される方のほとんどが体調悪化により病院へ入院であるため、加療中に面会に行ったりご家族をお見受けした際は声かけし状況をお尋ねしたり、遠方のご家族には状況をお話ししたりし継続的な関係を保っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、ご本人・ご家族に生活歴を尋ねたり、個々が望まれる暮らしをケアプランに取り上げ、その情報を職員が共有し、望まれる暮らしが出来るよう努めている。	職員は、利用者の日々の会話や様子から、本人の思いや意向が移り変わることを知っており、申し送りノートや介護支援経過には、本人の言葉や様子を記録するよう心がけている。また、家族と情報を共有するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の中から、過ごされてきた環境・経過を把握し、共同生活の中で望まれる生活ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日々の生活の状態を些細なことでも記録に残し、心身の状態の変化を即座につかめるよう情報の共有を図り、ご本人が活かせる出来る限りの能力を発揮できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意見やニーズ、関係者からの情報提供より、ケアのあり方・方向性など職員全員で分析し、必要なサービス提供や介護計画を作成している。	本人がやりたいこと、楽しめることを踏まえ、計画に反映させ主体的に取り組み、自立支援に配慮された介護計画書である。定期的なモニタリング結果を踏まえ、再アセスメントし、目標やサービス内容の見直しも柔軟におこなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の健康状態や日常生活の様子が分るように、具体的に記録し、特に変化があった場合などは申し送りノートに記載し、全ての職員が確認のサインを行い情報の伝達漏れがないようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設病院への定期受診、機能訓練の必要な方へのリハビリなど、ご本人・ご家族の方にも安心していただいている。職員が付き添いで歩いて行ける距離の環境である。他科受診はご家族での通院を基本としているが、状況に応じ通院介助を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、消防、派出所、公民館長の方が運営推進会議に参加いただいております。公民会主催のサロンへの招待や近隣の小・中・高校生の体験学習の参加やボランティアの受入も随時行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院での定期的な受診や年1回の健康診断にて健康管理に努めている。	本人、家族が希望するかかりつけ医である。定期的な受診は職員が支援し、他科受診などは、家族にも協力もっている。訪問看護ステーションとの連携があり、24時間医療連携が図れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関との契約による看護師により、定期的に日常の健康管理や医療の支援を受けている。利用者様への声かけホーム職員への聞き取りをし、情報の交換など、健康に対する支援が行われている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院される際は情報提供書を提出し、入院された後も職員が訪ね、医療関係スタッフと情報交換するなど安心して入院できるように努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取り・終末期のアンケートをとりご本人、ご家族の意思を確認している。病状が重度化したり、必要な医療が生じてきた場合は、主治医やホームがご本人・ご家族の希望に添えるように支援する。</p>	<p>重度化や終末期に向けた指針、「事前意思確認書」があり、今年1月に初めて看取りを経験した。次のステップに向けて今回の看取りの振り返りを実施、毎年、研修は実施しているが、利用者、家族、職員がチームケアにて看取りに取り組めるようより一層研修会を充実させたいと考えている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の対応については、協力病院との連携が図れるよう緊急連絡網により迅速に対応できるようにしている。又、法人の勉強会に参加したり、看護師長による勉強会を定期的にホームで開くなどして、急変時、即座に対応出来るよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内の緊急時非常事態連絡網により、日常誘導が行えるようにしている他、年2回消防署立会いの訓練において指導を受けている。水害、地震、火山の噴火、土砂災害の災害対策計画書を作成し避難訓練を行っている。	消防署立ち合いのもと、夜間想定にて避難訓練を実施している。また運営推進会議時に地域の協力要請を行い訓練し、役割を確認し具体的な避難方法や災害に対する意識向上を図り、意見交換をしている。水、缶詰類、ロウソクなどの災害グッズやポリタンクに生活用水を常時備えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重した言動は、常日頃より運営者・管理者より指導をされておりプライバシーに関わる全ての事に不適切な対応がないよう努めている。職員に対して個人情報の秘密厳守を指導し、ホームでの勉強会も行っている。	接遇マナー、個人情報の取り扱いやプライバシー保護については、毎年度、法人やホーム単独で研修会を実施している。如何なる時でも本人のプライドを傷つけるような言動やケアをしないよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	パーソンセンタードケアを心がけ、「その人らしく生きる」を大切にし、個人の行動を妨げず、業務優先にならないよう常に声かけを行い、気軽に言える雰囲気を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないように、その日の健康状態や変化を把握し、プランに取り入れている内容を確認し、利用者様の希望に沿って生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	理容・美容などは出来るだけ、ご本人、ご家族のなじみの店での利用をして頂き、又、ご家族の了解のもと職員による散髪が行われている。おしゃれが楽しめるよう出かける際は気に入った服装の着衣などの手伝いをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を献立に取り入れ、食べられない食品がある場合はその方だけメニューや材料の変更をしている。配膳・下膳など自発的にされる環境を作り、会話を交えながら楽しく食事ができる環境を作っている。	毎回、職員が食材を確認し、その日にメニューを作り調理している。春、秋には外食や手作り弁当を楽しんでいる。花見の時は、家族の分も準備して一緒に食べている。バーベキューは園庭で行い、ソーメン流しを外食で楽しんでいる。行事食など食を通じて季節が感じられるよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事摂取量を記録健康状態の把握に努めている。又、体重を隔週に測定し増減の変化を確認している。内科的に栄養バランスの調整が必要な方は、定期的に採血を行い、管理栄養士の指導を受けている。嚥下状態によって食事の形態を考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアを行い、出来ない方は支援をしている。義歯は週1回ポリデント消毒を行っている。咀嚼状態を観察し、必要に応じ法人の歯科衛生士に相談したり、法人協力医院にて治療を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で確認し、さりげなく声かけを行い誘導・介助をしている。布パンツの使用にて、日中は出来るだけトイレで排泄できるよう支援している。	利用者全員が、布下着だったり尿取りパットを併用するなどしており、リハビリパンツの方はおられない。尿意がなくてもトイレ誘導にて排泄してもらったり、ポータブルトイレを併用して排泄の自立支援に取り組んでいる。ポータブルトイレには、布が被せてありプライバシーに配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて毎日確認のほか、毎日牛乳を飲んでいただき、排泄の状態によってはヨーグルトやオリゴ糖を摂取していただいている。又、十分な水分補給と体操を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	希望があれば毎日時間に関係なく入浴可能である。入浴の拒否がある場合は時間をおいたり、人を変えたりし体調を伺いながら勧めている。温泉であり、個別支援入浴でゆっくりと語りかけながらリラックスしながら入っていただいている。	基本的には、午前中に週3回入浴介助しているが、本人の希望や必要性に応じて入浴を勧めたり、同性介助に配慮して入浴支援をしている方もある。温泉であるが、季節によっては、ゆず湯や菖蒲湯などを楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、余暇活動・リハビリ・散歩などリズムのある生活をおられる。昼の居間で寝転んだり、フットマッサージ機にてリラックスされたり、昼食後30分から1時間は休息を促したり入居者様の体調に合わせた生活を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋が記録台帳に綴じてあり、又、新しい服薬については、職員全員が確認し用法、用量の誤りがないようにしている。服薬後も体調変化がないか状態把握に努め、些細なことでも記録や薬局の方へ相談している。薬の飲みすぎのないよう担当医に見直しなども相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を把握し、身体機能を見極めて出来ることの能力を日常生活で最大限活かせるよう支援している。又、玄関掃除・テーブル拭き・洗濯物干しやたたみなど役割を持つ事で自主的に行われるようになれば、張り合いのある生活ができている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	心身の状態に配慮しながら買物に出かけたり、ドライブや遠足、外出に出かけている。夕方散歩に出かけ戸外の空気を吸う事で気分転換が図れるようにしている。花見はご家族と一緒に楽しんで頂けるようご案内を出し協力を得ている。	天候や体調を見ながら全員でドライブに出かけたり、施設敷地の花を見物をするなど季節に応じての外出も積極的に実施している。また、職員と夕方に散歩をして気分転換をする利用者もいて、本人の希望や主体性に任せて外出ができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個人でお金を管理されている方 他、ホームで管理している方について要望があった場合はお渡しし職員と一緒に買物をするなどお金を持ち生活することの大切さを職員も感じながら支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>いつでも電話がかけられるようにしてあり、ご家族からの電話の取り次ぎはもちろん、電話をかけることが出来ない方でも要望があれば気軽に対応するようにしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>職員と一緒に季節に合わせた壁面を作り掲示している。居間、食堂には天窓があり、光の調整を行い、温度・湿度計にてホールの管理をしている。浴室には木製の長椅子を置き温かい雰囲気作りを行っている。</p>	<p>天井が高く、採光があり、段差のある畳スペースは洗濯物を畳むなどに活用されている。対面式のキッチンから料理の匂いや音などが聞こえてくる家庭的な雰囲気である。壁には、干支をモチーフにしたちぎり絵や季節の花の切り絵などが季節を感じさせる。玄関には、季節の生花が活けてあり、プランターの花の手入れや室内の清掃も行き届いており清潔感がある。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂・畳の居間はワンフロアになっているもののテーブルで談話をしたり、居間で新聞を読んだり寝転んで日向ぼっこしたり、テレビを観たりと寛いで生活されている。日向ぼっこしながら気の合う方同士や職員と談話をしたりしてそれぞれ思い思いに過ごされている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居される際、使い慣れたタンスや昔馴染みの装飾品や写真など持ち込んでいただくよう声かけしている。ご本人持ち込みの家具や時計・人形・仏壇など置いてあり自分の部屋としての空間を大切にされておられるが、最近は新しいものを買って揃えられる方が多い。</p>	<p>家族写真や使い慣れた物を持ち込んだり、趣味の観葉植物を置くなど個性的な居室になっている。畳部屋で猫の世話をしながら過ごす利用者もあり、猫を飼うようになってから認知面も安定してきている。毎日の餌やりも本人の日課になっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりの方の心身機能を把握し、本人の持ち物で自分の部屋が確認できるようにしている。他、トイレが分るよう目印があるなど個々の潜在能力を活かし自立した生活が出来るよう工夫している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない